

に承認せられて居るものが、戦債問題、賠償問題、並に金の偏在、金産出高の減少の豫想、銀相場崩落等である元來金本位制は、其の完全なる活動條件として、圓滿なる國際貸借の均衡を前提するものである。

故に現代に於いて、金本位制が完全なる其の機能を發揮する爲には、國際貸借の過大なる不均衡を支持する、前述の諸原因が何等かの方法に依つて除去せられねばならぬ。

而してそれは可能であるか否や？

戦作に於いて、極度に露骨と成つた各國の國家主義的經濟政策、並に態度は、將來に於いて矯正せられ得るものなりや否や？

並に各國をして、斯くの如き事態に有らしめた各々の又は世界的の、經濟的諸原因は果して如何なるものであり、且つ之は改善せられ得るものなりや否や？

此等の意味に於いて、今日の經濟的研究の興味の重心が英國の金本位停止に刺戟せられて、金本位の考究に展向せられ、其の再吟味並に現在に於ける資本主義經濟の發育過程の打診に向けられた事は當然と云はねばならない。

而も事態は、一九卅一年の年を越えず、英國の例にならふ中小國は既に十指に餘り、十二月、我國の金本位停止の緊急勅令の發布は一先づ、金本位制停止競争の殿りを爲すものの豫想に對し、既に卅二年以降に於ける北米合衆國に於ける金の流出は五月二十五日迄に累計二億九千五百萬弗を算して停止する處を知らない。遂に今日完全に、且つ不安無き金本位制を施行するものは佛蘭西一國に止つた。

金本位の意義、價值、に關する學者識者の論説は、前述せる諸疑問に對する各自の解答、並に觀點を其の基礎觀念として居るを以て、此の相違、異同よりして、當然相當の距離、又は全然相容れざる論旨を開展して居る。

而して之等諸説の見透しを爲す事は、新に金本位の研究に取りかゝる者は勿論、一般學徒並に識者に有つても必要なる事と思ふ。

「金本位の研究」は之等諸家の學説を綜合する事に於いて特徴付けられる。

本書を読まれるに就いて一般的に注意を述べれば、資本主義經濟と金本位制との關係に就いて、兩者を密接不離なるものと見る者は、山崎、河上、兩博士を始め、田中、荒木、服部、金原、の諸教授が有る。

而して、金本位の將來に關しては河上博士を除いては一般に金本位制は回復するもの、或は之に代る可き貨幣制度の發見困難を論じて、金本位制を回復せしむ可しと結論して居る。

河上博士は、マルクスの價值法則に依つて、説明せられ、資本主義と金本位制との關係に於いては前述諸家と

軌を一にするものゝ、根本的見解の相違よりして、没落す可き事の必然的理由を主張せられて居る。

之に對して、兩者の關係を左程重要視せず、現在に於ける世界的不況及び恐慌を回復となし、此の回復手段を金本位制以外のものに求めんとする主張をなすものに高木、春日井、山崎（清純）高垣、の諸氏が有る。

高木教授は、現在世界的不況の原因を「單なる短波動景氣の循環程度となさず、金合理化運動と貨幣方面から來た、構造的、趨勢的、變化に負ふもの」との理由からして、實物準備紙幣制を取る事を主張し、獨乙のレンテンマルクの發行方法に依る事を提唱せられるもので有る。高垣、高島教授は、カツセル、ケインズ或は、ローレンス、フイツシャア、アイスラア等の説を参照、又は支持する事に依り、統制若しくは管理金本位制を（高島教授）或は、全く金を離れたる、統制通貨論（高垣教授）を指適せられて居る。

最後に、春日井教授は、必需品準備制度を提唱せられて居るが、具體的並に詳細の説明を、後日に約された。

本書が卷末に諸外國の貨幣理論の主要論説を加へられた事は、參考資料としての價值を加へ、且つ本書の任務を有意義ならしめたものである。

（東洋經濟出版 貳圓參拾錢）

事業報告

- ◇ 研究會 農業問題研究會、指導教授 河西太一郎氏
- ◇ 金融問題研究會、指導教授 竹村豐太郎氏
共に毎週一回
- ◇ 見學 秋葉原青物市場 花王石鹼工場 東京帝大セツルメント 深川一泊所 富川町無料宿泊所 衆議院
- ◇ 總會及講演會 六月八日第三回總會開催
エコノミスト編輯次長、木村孫八郎氏
演題「農村に於ける最近の動向」
- ◇ 研究講座「日常新聞經濟論の見方」
指導教授 竹村豐太郎氏 毎週一回

昭和七年七月三日印刷納本

昭和七年七月四日發行

第貳號

（定價拾錢）

東京府西巢鴨町池袋立教大學内

編輯兼

發行人

箭

内

正

容

東京府西巢鴨町池袋五〇八番地

印刷人

太

田

清

大

發行所

東京府西巢鴨町池袋立教大學内

立教大學經濟學會

電話大塚四〇四番